ICT 海外ボランティア会会報
No. 93

2020 年 8 月 1 日（土）

URL: https://ictov.jimdo.com
EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿
ブータン国災害対策強化プロジェクト
NTT 東日本　ﾃﾞｼﾞﾀﾙ革新本部国際室長
当会顧問　長江　靖行氏

◆特別寄稿
徒然日記(10)
当会特別顧問　石井　孝氏

◆海外実践マネジメント
今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(17)
元 PLDT ﾁｰﾌｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞ
元 NTT アメリカ社長
現(株)ハイホーCEO　鈴木　武人氏

◆海外グラフィティ
現金に始まり現金に終わる－その２－
「知の旅は終わらない」を読んで
日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智氏

◆海外便り
コートダジュール・リヴィエラ俳柳紀行(2)
元 JICA ｼﾆｱ海外ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ　北垣　勝之氏

◆第 2 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様　事務局

特別寄稿

ブータン国災害対策強化プロジェクト

当会顧問
NTT 東日本　デジタル革新本部
国際室長　　長江　靖行

NTT 東日本　国際室では NTT 東日本グループの強みを生かした「国際貢献」と「グローバル分野からの収益源の創出」をミッションとして活動しています。本稿では国際貢献の取り組みとして 2018 年 11 月より NTT 東日本グループの各組織と連携し実施しているブータン国「災害対策強化に向けた通信 BCP 策定プロジェクト」の活動について紹介します。

◆通信確保の重要性

ブータン国では過去に大きな災害経験がありませんでしたが、2015 年の隣国ネパールでの大地震の際、ブータン国国内の通信も影響を受けました。これにより災害時の通信確保の重要性が認識され、ブータン国政府の要請に基づき、現地通信会社のブータンテレコム（BT）において BCP（事業継続計画）を策定し、災害発生時の通信確保を目的とした、国際協力機構（JICA）による技術協力プロジェクトの実施が決定。NTT 東日本はジャパンリーコム社と共同で受託し、2018 年 11 月から活動を開始しました。

◆「つなぐ使命」への思い

この活動は災害経験のない BT に、「災害発生時に世の中がどう変化するか」「BCP とは何か」を理解してもらうことから始めました。BT の設備や業務の調査を行い重要ユーザーや復旧優先順位を決定、2019 年 5 月にブータン国初の BCP 基本方針を策定しました。

翌 6 月には BT から 10 名が研修で来日し、平常時の減災への取り組みや、災害発生時の復旧およびその後の復興活動、「安全第一」「つなぐ使命」などの私たちの思いを共有しました。

帰国後は、BT が主体となり NTT 東日本と合同で災害発生時に実行すべき行動規範を策定し、2019 年 12 月の大規模地震を想定した最終ドリル（演習）に向け、反復練習を実施し、行動規範が機能するかなどを評価しました。

その後の BCP 体制立ち上げ式典では、NTT－ME 藤本社長からの「BCP の活動は、時間がたつと停滞してしまいがちであるからこそ、今後も継続的に訓練していくことが重要である」とのメッセージの後、BT に正式に BCP 運用組織が形成されました。

当初、災害経験のない BT に、直接利益を生まない BCP の重要性を理解してもらうことは容易ではありませんでした。また、NTT 東日本と BT では環境がまったく異なることから、私たちの知見をそのまま持ち込むのではなく、BT が納得しブータン国に合った BCP にする必要がありました。国際室、高度化推進部、宮城事業部、NTTME などの案件に携わった社員の、国内外での熱い議論や丁寧な指導などにより、ついには「通信会社としての『つなぐ使命』」への思いは 1 つになりました。

◆BCP の運用へ

（1）ブータン国の状況に適した BCP の策定

平時、有事を問わずサービスを提供し続けることの重要性を共有し、ブータン国の法制度や BT の設備、業務などを調査し、ブータン国に合った優先順位などを盛り込んだ BCP 策定の支援を行いました。

（2）BT による BCP の運用

策定した BCP について、BT が自ら運用できるように、BT の積極的な参加のもと一体となって課題解決の議論や、ドリルと評価、BCP の改善を繰り返し、最終的には事前に設定した厳しい評価基準を BT がクリア。情報通信大臣より BT の BCP 運用開始が宣言されました。

（3）BCP 運用のための体制づくり

ドリルと並行し、BCP の活動が適切に評価される人事評価制度の見直しや、BT の BCP 運用組織確立などについても BT 幹部と議論し、2019 年 12 月に BT に新組織として業務継続室が発足、専属の室長が任命されました。ブータン国で新型コロナウイルス発症時に業務継続室を中心に体制が構築され、現在も実際に対応を実施しています。

この一連の活動はブータン国国内で優良事例として関係機関に共有され、高い評価を得ています。

◆国際社会での地域貢献を

今回、BT は BCP の運用を開始しましたが、引き続き BT のさらなるレベルアップをめざし、NTT 東日本では人材育成などの技術支援活動を継続します。

また、本活動中に井上社長が BT を訪問(写真)し、BT 幹部との交流の中で「日本だけでなく国際社会においても地域貢献が重要であり、同じ考えを持つ BT と共に地域に根差し地域の発展のため一緒に汗をかいていきたい」とのコメントがありました。その後、2020 年 7 月 27 日、ICT 分野における技術交流・人材交流を通じた BT との関係強化と事業の発展を目的とした覚書を締結いたしました。

BT の「現場の技術者の技術力の高さ」や「限られたリソースの中で最善を尽くす取り組み」など、学ぶことがたくさんありました。今後さまざまな活動を通じて、お互いに切磋琢磨し地域発展のために汗をかいていきたいと思います。

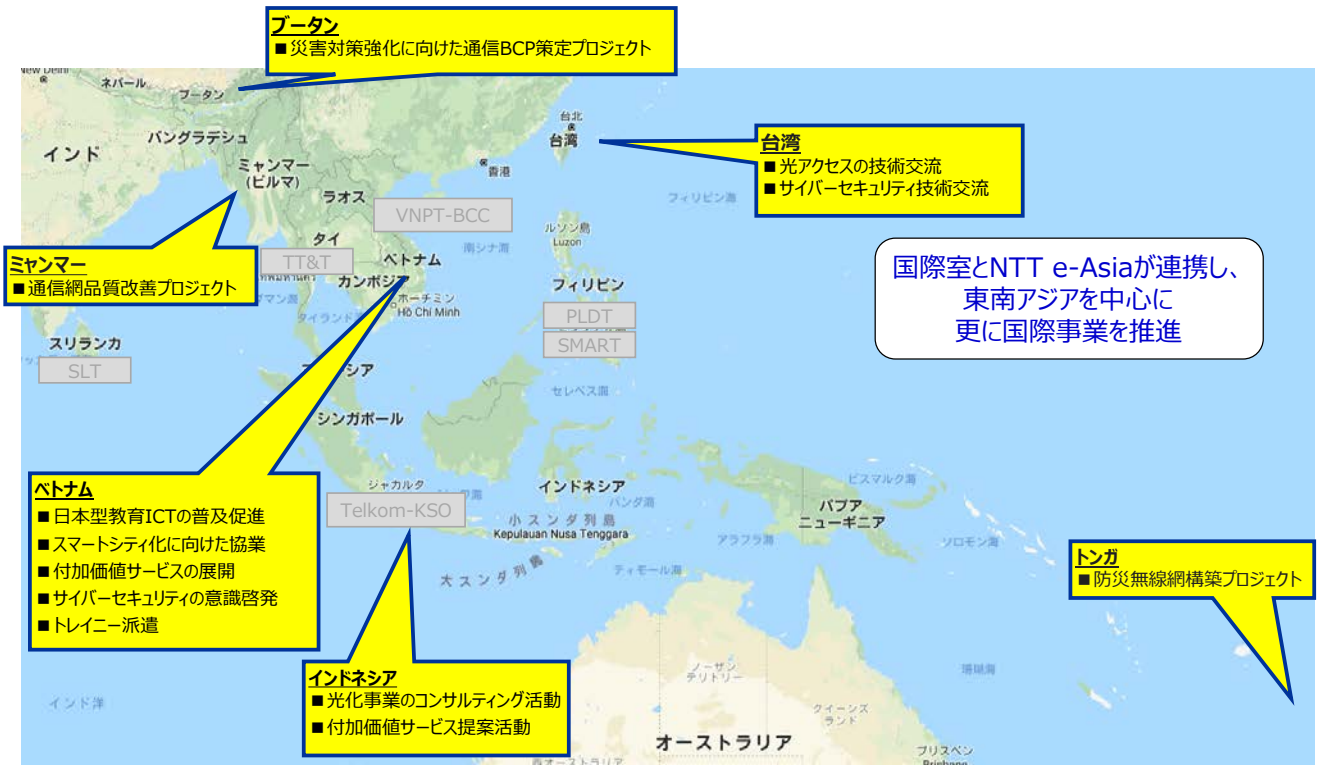
◆国際事業のさらなる展開に向けた“NTT e-Asia”の発足

本稿で紹介した「国際貢献」と並び国際室のもう 1 つのミッションである「グローバル分野からの収益源の創出」については、グループ会社である NTT ベトナム社とも連携を図りながらベトナム国、インドネシア国を中心に取り組んでいます。

このような状況の中、“One NTT”の方針に基づく NTT Ltd.グループのブランディング展開を進めている NTT Inc.からの要請を受け、2020 年 6 月 1 日に NTT ベトナムの商号変更を行いました。新商号については、今後 NTT ベトナムがベトナム国に加え、国際室が取り組んでいる東南アジアを中心とした国々での事業においても連携して対応することを踏まえ、「NTT イーアジア（英語表記：NTT e-Asia）」としました。

NTT e-Asia の“e-Asia”には、NTT 東日本のアジア事業（NTT EAST Asia）として、主に東南アジア（South East Asia）の国々に対する ICT ソリューションによる電子化（electronic Asia）を通じ、同地域のさらなる向上（enhance Asia）に資する、という意味を込めています。

国際室は NTT e-Asia と共に、現地パートナーとの強固なリレーションを基盤として、現地国や地域と連携した課題解決への取り組みを通じた、共存共栄を実現する事業展開を今まで以上に進めていきたいと考えています。



※グレーアウト文字は、NTTグループと関与があった各国通信キャリア名称（VNPTおよびTelkomは現在も継続して交流を実施中）
（VNPTおよびTelkomの後の文言は代表的な過去プロジェクトを表す。）

◆おわりに

NTT 東日本の国際協力は 1 社時代から 60 年以上の歴史があり、多くの技術者が技術支援を行い多大な成果を挙げてきました。

このブータン国災害対策強化プロジェクトにも国際室をはじめ NTT 東日本グループから総勢 42 名の社員が現地入りしました。NTT 東日本のノウハウ、東日本大震災の経験などを丁寧に技術移転してきたことが、ブータン国政府や BT から高く評価され両社の交流を深める大事な機会になりました。

今後この関係をさらに発展させると同時に、引き続き NTT 東日本の事業に貢献できるよう活動していきます。

特別寄稿

徒然日記(10)

当会特別顧問　石井　孝

「愛の方程式」

大好きな町田（邦雄）様のエッセーに「第二の定年」という作品がある。これを読んで、老いについて改めて色々と考えさせられてしまった。

小生が老いのようなものを切実に感じたのは二十年ぐらい前の事である。

JICA のシニアボランティアの英語の採用試験の時であった。現在は TOEIC が主体のようであるが、当時はペーパーテストと Dictation であった。

ペーパーテストの方は何とかなったが、Dictation は完敗であった。試験の前に試験官から「Dictation では、日本文を書いても点数になりません」と言われ、そんな事は当たり前ではないか、何を言っているのだろうと思った。

所が如何したことだろう、テープレコーダーから流れてくる英語の意味はよく分かるのだが、書き取れない、手が思うように動かないのである。思わず日本文を書いてしまいそうになるのである。

あの時、「あー老いたか」と、つくづく切ない思いに耽ったことを思い出す。

それから此の方、今度は物忘れが酷くなってきた。他人様の名前をど忘れする事は日常茶飯事であるが、話をして居て言葉が出て来ない、此処で何かぴったりした巧い表現が出来る言葉があったな、と思うのだがそれが出て来ない。友人などとの会話であれば問題ないが、人前でのスピーチとでもなると、見っともない立往生になってしまう。

この点で、モノを書く場合は問題無い、おまけに、パソコンが漢字まで教えてくれる。だが、そのせいもあってか、今度は漢字がすっかり書けなくなってしまった。

そんなこんなで、なんとか呆け防止をしなければと思い、高校数学の復習を試みた。

すると如何したことか、ケアレスミスの連続である。特に数値計算になると、検算の出来る問題であればチェックができるが、そうでない問題の解答を解答欄で突き合わせると尽く合わない。物忘れだけでなく、注意散漫になってしまったようなのだ。

ただチョット嬉しくなる事もあった。俗に「愛の方程式」と呼ばれる、ハート型の軌跡を描く数式がある。

これをチェックしている過程で、太陽を原点にすると、お月様もハート型の軌道を取るのではないかと気付きパソコン上に描いてみた。

するとこれを見た友人が、NTT のロゴマークのダイナミックループも同じ手法で描けるのではないかとアドバイスしてくれた。

チョット細工してみると、見事なダイナミックループが描けるではないか。

「そんな事が今、解ったのか」と仰る方も居るだろう。不明を恥じるが、「パスカルの閉曲線」が簡単な単振動の合成で描けるとは、思ってもみなかった事なのである。

こんな瑣事が呆け防止の特効薬になるとは思わないが、平々凡々たる毎日の中でちょっとした加薬にはなりそうな気がしたものである。

「米国在住の友人からのメールと返信」

石井様、

ご多用中失礼致します。突然ですが下記の書籍をご存知でしょうか。オーストラリアで 2017 年に出版されベストセラーになり、オーストラリア政府政策にも影響を与えた書籍です。そして、漸く日本語版も出版されました。中国世界制覇戦略の一部が非常に良く調査して書かれた本です。読書がご負担にならない様であれば一読の価値のある書籍ではないかと思いメールいたしました。

2018 年には米国 CSIS で著者が講演もしています。又、ネットでも話題になっています。

サイレント・インベージョン - Wikipedia
https://ja.wikipedia.org/wiki/サイレント・インベージョン

「返信」

「眼に見えぬ侵略」、書店にも図書館にもありませんでしたが、アマゾンで漸く入手出来ました。早速、読み始めて居りますが、中国共産党の長期戦略に戦慄を覚えます。最近のトランプ氏の言動や、香港の騒動、これらの事情が良く分かる気が致します。日本の一部政治家の言動も、こうした戦略にリンクしているかと思いますと、身の毛がよだつ想いです。

取り急ぎ、お礼方々ご報告まで。

「眼に見えぬ侵略」

一気に目を通してみたが、「空恐ろしい」の一語に尽きる。綿密な遠大且つ長期計画の下に、それこそ、考えられるありとあらゆる面に対して、緻密で巧緻を極めた手法を駆使して、国家が侵略行為を実行し、何時の間にか他国を支配する。

そして、ここが一つ重要なポイントであるが、この為には「糸目をつけぬ金」を使う。人間は金には弱い、何の得にもならないリスキーな事に手を出す人間は居ない。そして兎に角も、人間の弱みを徹底して衝く。

我が国に於いても、そう言われてみれば、思い当たる節が可成り存在する。当事者は綺麗ごとを言っているが、裏では表に出ないかたちで相当な金を貰って、縛りがかかっているのではないかと思えて来る。

また、これを書いたハミルトン氏には感服する。自国を守る為に、これだけの精緻な暴露記事を書ける学者・評論家が日本に居るだろうか。

「汚れモノ」

風呂場の排水がどうもすんなりと行かない。排水口を開けて中をよく見ると、大量の汚れものが詰まっていた。早速取り除くと排水は元に戻った。

ふと思ったのだが、人間の心の片隅というか、心のはけぐちにも積年の汚れものがいつの間にか溜まってしまっている。

人間の場合は流れてしまわずにこびりついている。しかし、良くしたもので、普通の人は、普段は忘れてあまり気にかからず、気にもしない。

所が、文学、特に純文学などと称する小説などは、この汚泥のような他人には見せたくも見られたくもないモノを白日の下に晒し迫ってくる。

あまり執拗にやられると辟易する。「宮本輝」ぐらいが良い。

算数のお勉強も微積まですんだ。図書館も机や椅子は取り払ってしまったが、貸出は始めた。「宮本輝全短編集（上下）」他数冊を早速借りて来た。

今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(17)

―『NTT を巡るグローバル環境の変化』日米貿易摩擦、AT&T 分割・再編、そして NTT のグローバル化へ―

元 PLDT ﾁｰﾌｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞ
元 NTT アメリカ社長
現　株式会社ハイホーCEO
鈴木　武人

第 9 章：普通に怖かった話
9-1：フィリピンのお話

①　マニラに赴任して直ぐに大使館や ADB(アジア開発銀行)等への挨拶回りに参りました。マニラはアジアの中心的位置付けにあって ADB の他にも国連機関があります。古い話で恐縮ですが、小生の小学校時代の教科書に、美しい夕焼けに染まったマニラ湾を背景にビルが並んだ写真が、まるで憧れの地の紹介のように有ったように覚えています。

Smart プロジェクトの次長相当の勝俣氏は、マルコス時代に 3 年程 ADB に出向していました。彼はその頃の出来事として、オーストラリアからの ADB オフィサーが門衛に射殺された事件について話してくれました。そのオフィサーはとても礼儀正しい人で、毎朝 ADB の門衛にも挨拶をしていたそうです。さて、話は門衛が何等かの原因で金が必要となり、思い余って毎朝機嫌よく挨拶を交わしていたオフィサーに金の無心をしたところ、オフィサーは無碍も無く断ったそうです。その途端、門衛は裏切られた気持ちになったのかもしれません、持っていた銃でオフィサーを射殺してしまったとの事でした。

フィリピン人は家族をとても大切にします。また上司は部下の面倒を見るし、部下は命を懸けて忠実を尽くす等、麗しい昔の日本を思わせる文化があります。ただ、人間関係の思い込み、即ちこの門衛はオフィサーを上司と勘違い、そして思わぬ展開となってしまったという事です。この話は、フィリピンでの人間関係で、常にある一定以上の距離を置くべきとの教訓となりました。

②　次の③の話をあげるまでも無く、世間では余りにもフィリピンの危険性が指摘され、外出の際には数人のグループで行く、さらにボディガードが付くという状況に、息が詰まる感じがしました。が、徐々に様子が判って来ました。即ち、全く理不尽に襲われる事は案外少ないということです。

これは同国における宗教と、教育程度が高く事の善悪を良く心得ていると言う事から来ていると思っています。三井物産マニラ支店長誘拐事件の折も、彼がある非常に個人的な件で、現地の家族に金を払う約束をしたのにこれを守らなかった事で家族があちらこちらに相談し、その情報を得た日本赤軍が現地の共産軍に関与させたとの話がありました。

多くの日本人の被害の裏には日本人による関与、或いは指示があるとの話が有りました。拳銃が流通している現状で、一説によれば一人の命、即ち殺人の依頼に必要な費用は$1000位だそうです。当地へ旅行する日本人がその家族や知り合い、また仕事の関係者から保険を掛けられて、或いはその持ち金が狙われて旅行中に殺される等は典型的なやり方のようでした。

日本での逮捕を逃れるためにフィリピンに来た人が、その生活の糧を得るために誘拐や強盗を立案、現地人に執行を指示するケースも多かったように記憶します。結局、一番怖いのは日本人と心得て、商工会議所以外の日本人の集まりからはある程度距離を置いて生活するようにしていました。

③　エドサ(EDSA)革命とはマルコス政権の腐敗した独裁政権に対し、1986年2月22日の国軍改革派将校の決起から、25日のコラソン・アキノ(暗殺されたアキノ上院議員の夫人)政権樹立に至るまでの100万人に及ぶ民衆・軍・宗教家による活動で、その際マルコス夫妻は米軍のヘリで宮殿から米軍基地経由でハワイに逃れたそうです。小生が居住したMakati市のツインタワーのデッキには防護壁があり、そこにはその時の弾丸の跡が有りました。

そもそもフィリピンには１８９６年に代表されるスペインからの独立運動、さらにスペインから米国へ植民地として売却された事から、その後は米国からの独立の戦いの長い歴史があり、結局、第二次世界大戦後まで独立が果せず多くの血を流してきました。

2003年7月27日、300名以上の国軍兵士がアロヨ政権の腐敗に抗議するとしてPLDT近くのアヤラ・センターのコンドー兼ホテルに立てこもり、これはオークウッドの反乱(Oakwood Mutiny)と呼ばれています。首謀者はGerardo Gambala陸軍大尉とAntonio Trillanes海軍大尉で、事件と裁判を通じてアロヨ政権と軍の不敗を告発したTrillanes大尉はアイドル的な人気を得て、その後2007年の上院選挙に出馬・当選したそうです。

フィリピンは貧富の差が極端に大きく、政治の権益が大きい事から、ある条件が揃うと革命が支持される基盤がある様です。NTTからの出向者の戸川隆氏がそのコンドーに居住しており、騒乱の最中でも意外と静かでバスがアレンジされて無事出る事が出来たと言っていました。彼はPLDTでのインターネット等のＩＴ新規事業を推進すべく設立したePLDTのアドバイザーの為に赴任して貰って間も無い出来事でしたから驚いた事でしょう。

④　車のドライバーには散々悩まされました。何人かのドライバーは麻薬がらみで逮捕、あるいは行方知れずになりました。ドゥテルテ大統領による昨今の麻薬撲滅戦争に関する人権問題は、余りにも深刻な麻薬禍状況から、警察だけでなく、バランガイ(部落・町内会)単位の自警団と称する武装組織も動員され、さらに軍隊まで動員しての対処と聞いています。軍隊は、共産軍との戦いやミンダナオでのイスラム過激派との戦闘を続けている事から危機感があり、士気が高いと言えます。

ただ、これ等の公務員の給与は非常に低いのには驚かされます。アロヨ大統領の時に大統領の給与が$1200/月で、在日フィリピン大使が$1000/月と聞かされました。その収入であのような豪邸が手に入れられるのかが不思議ですが、公務員給与が余りにも低い

とどうしても別の収入を得なければならないというのも現実でしょう。ただ、公務員の不正を正す為にその給与の 10%引き上げ法案を提示した途端にアロヨの支持率が下がりました。民主主義・政治は難しいものです。従って、色々な局面で賄賂の要求に遭遇します。個人の問題なら何とかなるのでしょうが、NTT から出向の身で、公的な場面での状況で悩む事があります。その際には、現地のパートナーに伝えて、直面するのを避ける必要がありました。

⑤　会社経由で雇用したドライバーでも、結局個人同士の付き合いになりますから苦労があります。パンギリナン氏と海外出張をしていた際、田嶋氏から小生の携帯に電話を貰い『どちらに居ますか?お怪我の具合は？』と立て続けの質問を受けました。聞いた所、小生の社用車が郊外の準高速道路(EDSA)で中央分離帯に激突、転覆、大破しているのを見たとの事で電話をしてくれたのだそうです。Smart へ連絡して調査してもらった結果、ドライバーとメードがいつの間にか親しい関係となっており、小生の留守にドライバーが勝手に社用車を運転して事故を起こしたとの事でした。メードもドライバーも交代せざるを得ませんでした。このドライバーもその後麻薬がらみの抗争で死亡したと聞きました。

⑥　これは別のドライバーでしたが、自分で店を開くとの事で自分から辞めて行ったのですが、その後その店に投資をしてくれとの要請があり、これを断ってしばらくすると今度は、『闇の世界の情報で貴方が誘拐のターゲットになっている。ターゲットを外すには 100 万ペソ必要』と連絡して来ました。誘拐がらみの脅迫です。

誘拐への対処策として、ネゴシエーションを含めて身代金等費用を負担する保険がロンドンにあるそうですが、この時は相手が分かっていたので、エージェントに追跡を依頼して終わりとしました。このエージェントによれば、このドライバーの店は繁盛する事なく、結果的に店をたたみ、その後麻薬関係の取引に関わったとして逮捕されたとの事でした。念のためですが、もし誘拐保険に加入した際は、絶対にこれを秘密にする必要があるそうです。そうでないと保険金目的で狙われてしまう可能性が高くなるそうです。

これら運転手のいずれも Smart が雇用したドライバーでしたが、いつも居眠りをしていて危険極まりないドライバー、ギアの切り替えが上手く出来ないドライバー等々難問ばかりでした。PLDT で雇用したボディガードを兼ねたドライバーが見つかるまで苦労が絶えませんでした。この優秀なドライバーは、元々は共産軍のメンバーであったとの事です。共産軍はかってマニラに攻め入る位の勢力を誇り、Smart の CEO だった Doy・Vea 氏も学生時代にはマルコスに対抗する為に共産党に入って、挙句刑務所に収容されていたそうです。彼に言わせれば、かつて真面目な人は皆共産党に入っていたとの事で吃驚。

⑦　首都圏は御多聞に洩れず、公害の酷いところでした。最初に住もうとしたのは空気がきれいと思われた緑の美しいビレジでした。しかしビレジの家は極端に大きく、維持管理が大変な様なのと、停電の際に必須と言われた自家発電装置付きの家がなかなか見つけられなかった事から、コンドー（日本のマンション）に切り替えました。日本のある大手ゼネコンの名前を冠した新しい高層マンションへ決め掛かり、そのゼネコンの現

地責任者へその旨を告げた所、あそこは止めたほうが良い、名前も使わないで欲しいと散々交渉したが止められなかったとか。

水洗は最初に建築された２つの高層マンションだけとの事でした。フィリピンは勿論地震帯にあり、最初の２つの高層マンションだけは入念に設計され、地下の基盤も鉄筋も入念に工事されたが、その後は分けが判らなくなっているそうです。従って、その一つのツインタワーのペントハウスに住む様にしたのです。

下から見ると、全ての窓はぐるりとコンクリート柵に囲まれ、一部には弾丸の跡がありましたが、安全そうでした。また、その屋根部は１．５階分もあってこれも安全そうでした。しかしながら、住んで判ったことは立派な屋根部は中空で、各戸の共通の洗濯物干し場で、ペントハウスの天井は、晴れの日はマニラの強力な日光によって熱くなっていると言うことでした。また、冬の季節、即ち寒くはなりませんが、多くはどんより曇った日が続いて、ジープニー等のジーゼルからの排気ガスが公害を引き起こしました。ペントハウスは２７階でしたが、丁度その高さが公害ガスの逆転層を形成し、上からは霧の中のような、また下から見上げれば薄く黒ポイ雲がかかっているようでした。要するにこの高さは避けるべきと言う事でした。１年程で隣の別の２つの一つであるリッツタワーの１８階に移り、此処は居心地が良く感じました。

⑧　台風の事

１９９５年１１月、ラモス大統領による大阪からの Smart の開通記念通話の前日に、超大型台風アンジェラ（現地名ロシング）に襲われました。凄まじい風雨に、２７階のフロアは大きな船が嵐に会ったようにゆっくり前後・左右に揺れ、家具が滑って勝手に動きだしていました。自分とメードは大きな食卓テーブルの下に潜り込んで家具から身を守る事が精一杯の状況でした。窓から外を見れば、駐車場の乗用車は勝手に動いており、また車道のクルマは歩道に乗り上げてそのまま横転していました。殆ど人は居ませんでしたが、数人が木につかまって飛ばされないよう頑張っていました。ガラス窓は案外丈夫で割れませんでしたが、隣のマンションの窓は風に吸い取られたように外側に外れ、そこから風が吹き出て、シーツがベッドを引っ張り出す所でした。(次号に続く)

海外グラフィティ

現金に始まり現金に終わる－その２－

日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

ドイツのフィンテック企業「ワイヤーカード」の前ＣＥＯブラウン氏が不正会計の疑いで逮捕された。６月２３日、ドイツの検察当局が発表した。不正会計疑惑の内容は、①収益などを偽って株価操作した②１９億ユーロ（２２８０億円）の現金が行方不明となっている点である。経緯を説明すると、既に２０１９年１月にはフィナンシャル・タイムスが不正会計疑惑を報道、２０２０年６月には、監査法人アーンスト・アンド・ヤングが預金残高の十分な確認を３年間も怠っていたというものだ。同時に、ＣＥＯが辞任、逮捕につながった。フィンテックとは､financial technology で､Finance と Technology を組みあわせたものだが、金融工学とは異なる。金融工学は従来の金融手法に情報処理を用いるが、逆に情報処理技術を用いて新たな金融サービスを創り出すものである。

ここで、問題にしたいのは、監査法人の杜撰さと、同時に内部監査人の怠慢である。現金の残高確認は経営上の基本中の基本動作でこれを怠っていたことになる。それと、ＣＥＯはもちろんだが、財務の責任者であるＣＦＯ（最高財務責任者）はいったい何をしていたのかである。

企業はどんな小さな企業でも日頃から現金監査を内部で行っており、その際、必ず、取引銀行から「残高証明書」Balance Certificate を取り寄せる。ましてや、外部の監査法人がこれを怠るとは、論外というべきだ。実際には、例えば、シンガポール大手のオーバーシー・チャイニーズ銀行の口座に持つと言われる１０億ユーロ（１２００億円）について銀行側に直接確認を行わず、書類などで済ませていたようだ。

企業側を言えば、架空取引を創り出すため、偽造契約書をもとに、債権額をふくらませ、債務超過に見せかけまいとしたようだ。つまり、１６億ユーロもの長期借入金が手元資金を上回る計算となる。ソフトバンクグループからの出資受け入れや、アメリカのアップルペイやグーグルペイのシステムも手掛けてきている。つまり、この事件は今後、グローバルに影響が出そうである。

私が、アフリカ・ガーナの郵電公社の経営再建に赴く際、協力企業であるフィリピンの監査法人の幹部からこういわれたことがある。「予算管理などのかっこいい業務もさることながら、経理の仕事は毎日の地味な仕事の積み重ねであり、伝票を一枚一枚繰ってチェックしてゆくのもＣＦＯ（最高財務責任者）の大切な仕事のひとつだ」。

日経新聞の情報では、投資家から早くも監査法人の責任を追及する動きが出ているという。ドイツの投資家団体は６月２６日、監査法人の新旧の担当者３人を刑事告発したという。銀行残高の確認という基本的な監査作業に不手際があったと指摘、株価指数を構成し有望とされた企業のスキャンダルで「ドイツの株式文化が永久に損なわれる」と批判しているようだ。ブラウンＣＥＯは、発行済み株式の７％を持つ筆頭株主でワイヤーカードを欧州を代表するフィンテック企業に育てたが、２５日に破産申請している。（完）

「知の旅は終わらない」を読んで

日本ﾍﾞﾝﾀﾞｰﾈｯﾄ社長　ｴｯｾｲｽﾄ　田上　智

知の巨人立花隆氏の最新作である。副題が「僕が３万冊を読み１００冊を書いて考えてきたこと」とある。本名・橘隆志。１９４０年生まれ。５歳の時北京から引き揚げ。相当、読みごたえがある。私より年上だが、随分時代的に共通点が多々ある。

氏は、ノマド、デラシネであり、組織に属さず、権力を極端に嫌う。幼いころから文武両道で、中学の走り高跳び全国二位。茨城のエリート小学校でＩＱテスト全校一番となる。そして、この頃から博覧強記。これが、のちの書くことの礎となる。

このあたり、単なる文筆の人でなく行動のヒトでもあるのだ。都立上野高校から東大文Ⅱに進む。在学中に安田講堂事件に出くわすが、仏文を卒業後、サラリーマンとして文芸春秋に入社。二年余りで退社し、今度は哲学科に学士入学。在学中、ロンドンの国際学生青年核軍縮会議に出席。渡航費はカンパだが、半分しか集まらず、残りは東大総長からの寄付である。行動の基本はキリスト教精神である。母親が熱心なキリスト教徒であったが、本人は洗礼を受けていない。しかし、精神はしっかりと受け継いでいる。立花隆の「権力嫌い」はここから来ており、のちの「田中角栄研究」に結び付くのだ。これにより、時の総理を退陣にまで追い込んだ衝撃の書なのである。「権力は嫌いだし、権力にひれ伏す人間も嫌い。権力をかさに着て威張り散らす人間と権力の前にひれ伏す卑屈な人間が大嫌い」。この精神的バックボーンと徹底した取材力がすべての著作の基本となっている。

単なる文筆のヒトでない証拠に「人間はすべて実体験が先」であり、「旅で経験するすべてのことがその人を変えてゆく」などは行為も重視している証拠だ。

作家の小説のモチーフは、伊原西鶴の昔から「色と欲」なのである。この欲には男女の愛欲、金銭欲と権力とがあるが、藤本義一は今東光に「西鶴を読め」と言われた所以である。歴史小説家・司馬遼太郎はこの「権力」に注目した。そして我が立花隆は「反権力」なのである。田中角栄研究のあとはそれこそ、宇宙、サル学、脳死、生命科学と己の好奇心の赴くままに書きまくっている。さらに上げれば、日本共産党の研究、天皇と東大など一見タブーとも思えるものに畏れなく切り込んでいる。「世俗権力を畏れたことは一度もない」のである。しかし、好きを仕事に生計を立てていければこれにこしたことは無い。

こんなことがあった。ニュースステーションで「アマチュア上がりの還暦に近いプロゴルファー」を取り上げたとき、久米宏から「本当に好きなことで食べていけるのは、ほんの１％ぐらいだ。自分はその１％にはいっている」と。立花隆も間違いなくその１％にはいる幸運な人間である。

生真面目な本だが、息抜きになるようなカ箇所もある、例えば「本物のフラメンコは夜１２時を過ぎてからでないと見られない」。マドリッド出張で、私もこのことを既に知っていて、粘りに粘って、１２時まではいたが、同行の人が極くまじめで「帰りましょうよ」ということで帰らざるを得なかった。至極残念であった。一読をお勧めする。（了）

海外便り

コートダジュール・リヴィエラ俳柳紀行(2)

元 JICA シニアボランティア
北垣　勝之

ミュージアムや知る人ぞ知る 宝物(ほうもつ) 殿(でん)

イタリアの諸侯財 成(な) すコレクション

パガニーニの名器燦然ジェノバの地

パガニーニ(Niccolo Paganini、1782～1840)は、イタリア稀代のヴァイオリン奏者兼作曲家、彼が愛用した名器がジェノバのトゥルシ宮に保管されている。今日では値の付かない宝物である。ジェノバには王宮とか宮殿と称する豪荘な館を多数見かける。それらのうち美術館にもなっている赤の宮殿、白の宮殿、そしてトゥルシ宮を見学する。受付にて一人 9€をシニア料金の 7€に負けさせて入場、けだし絢爛たる絵画や美術品のオンパレードにうんざり、せめて来場の印にせんとパガニーニの名器を心眼に焼き付けた次第である。ナポレオンのリグーリア占領を挟んで 18～19 世紀地中海の王者として君臨したジェノバの栄華を偲ぶ。

鷲の巣城守りの中心教会なり
年季を感じる重厚な古刹は今も現役
(グラース・ノートルダムデュピュイ大聖堂)

卵立て故地を尋ねりや石畳
新大陸発見、寝転び遊んだコロンの地
(ジェノヴァ・コロンブスの家)

名曲を名器(ヴァイオリン)奏でて名手出で
パガニーニがストラディバリウスで作曲多数
(ジェノヴァ・トォルシ宮)

18C の贅を尽くしたエレガント館
元ハルビ家大邸宅、後サルデーニャ王住居
(ジェノヴァ・王宮入口)

馬鹿にすな僅かに残るコロンの 家(や)

災害もどこ吹く風か高速道

ジェノバの街は港と高台の間に広がる。高低差があるため行き先によってはアプローチが大変、それでも地下鉄以外は乗り物を使わず歩き回る。ジェノバはリグーリア州の州都、中世の海運で稼いだ港町であると同時に、その後は商工都市として発展してきた。航海王者コロンブス(Christopher Columbus,1446～1506)の生地とあって、彼が少年時代を過ごした家を見に行く。草に覆われた正面だけが残るあっけない遺跡である。豪華絢爛たる絵画や遺品とは雲泥の差、やはりカネにならないものは疎んじられる。西北に向けての新市街、そこには複雑に交差する道路が建設中であった。丁度 1 年前、高架自動車道のバイパスが崩落、大惨事を引き起こしたが、その修復も終え再び開通するばかりになっていた。

新旧のトリノせこいぞ観光都市
観光地文化資本で国興し

列車は途中、雪原の中を走りトリノ中央駅に着く。街中にも一部残雪が見られる。ピエモンテ州の州都トリノは人口 100 万都市、アルプスの雪嶺を近くに眺め、穀倉地帯の広がる一方、丘陵地はワインの産地、そして新市街にはイタリアを代表する自動車産業が君臨する。トリノの繁栄は 17C サヴォイア家の都市国家から始まり、スペイン継承戦争でサルデーニャ島を得、イタリア統一への一歩を築く(1861 年)。やがて政権はフィレンツェ、ローマへと遷都していく。しかしながらサヴォイア家時代の絢爛たる遺産や、イタリア経済を牽引してきた産業資産などは、今日再び遺構や宮殿、美術館や博物館等の観光資源として脚光を浴び、世界中から観光客を呼び込んでいる。その一つエジプト博物館を訪れる。

古代エジプトを知る三大博物館は、①エジプト考古学博物館(カイロ)、②大英博物館(ロンドン)、そして③トリノのエジプト博物館を挙げねばなるまい。その他、ルーヴル美術館にもエジプト・コーナーがあり参考にはなるが、以上①～③の比ではない。③の特徴は 19C サヴォイア家のコレクションをベースに、その後収集された石棺・ミイラ、装飾品等のこまごました生活に関した発掘品が豊富である。勿論、①は展示品の数では圧倒的な物量を誇るが聊か雑然としており、カイロ近辺やアレクサンドリア、ルクソール、アスワンに散在する遺跡と相俟って厖大な情報量を有す。②は大型の彫像や遺構展示に加え象形文字の解明に関する遺品研究に秀でる。①～③で入場無料は大英博物館のみ、今回訪問したトリノの博物館は、以前にはあったシニア割引が撤廃され、なべて一般入場の高め料金(13€/人)を徴収する。イタリアも観光客相手に随分せこい商売をするようになったものだ。

東洋の薫り漂う丘の上、日の丸はてなミュウジアム
公園の高台ヴィネッタ・ディ・ネグロにたなびく
(ジェノヴァ・キオッソーネ東洋博物館)

神々し古代エジプトファラオの間
ラムセス２世等、ファラオの彫像に囲まれて
(トリノ・エジプト博物館)

愛らしき時代忘れる女性像
2006 年リニューアル、女館長の肝入り展示か
(トリノ・エジプト博物館)

墓入りやイヌ畜生も人並みに
石棺、装飾品に混じって犬のミイラもある
(トリノ・エジプト博物館)

新市街自動車王国博物館

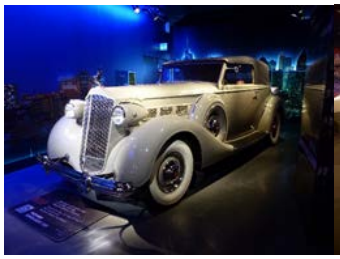
自動車のお郷(さと) 知るべしフィアット魂(こん)

職人の技が断たれて回顧かな

トリノ中央駅から地下鉄で 6 つ目、リンゴットで下車、ポー川沿いの自動車博物館を訪れる。駅手前にはフィアット本社ビルが鎮座し、イタリアが誇る自動車王国のお膝元だけに手前味噌な感じの博物館、入場料一人当たり 12€のところシニア価格 10€に負けさせて入館、3 階建ての広い屋内を上層階から順次見学しながら降りてくる構造である。新旧の自動車が解説付きで所狭しに並んでいる。ほとんどがイタリアを中心とした欧米車ばかりで日本車の陳列はない。展示を見ていると、今日生き残り名を留める自動車メーカーは、草創期において小型車から起業した社に限られるようだ。BMW やホルクスワー

ゲン然り、フィアットやルノーやミニも例外ではない。そして景気浮沈の間では軍需と関係を持たざるを得なかった歴史がある。特にイタリアでは、高度な職人技で名車を作り出してきた伝統があり、それがスポーツカーとなって今の世に垂涎の高級車を齎している。1 階ロビーにはアルファロメオやランボルギーニなど 3 種類のハネムーン用オープンカーが並び、レンタルの申し込みを待っていた。高いか安いか分からないが費用は半日 20 万円ほど。

今日の自動車産業は職人の勘とセンスに頼るだけでは追いつけない。型・デザイン、材料部品・軽量化、内装、自動化、性能、燃費、メンティナンスなどあらゆる視点からコスト・パフォーマンスが追究される。それに開発研究費もばかにならない。この競争から脱落した車種が一部博物館に拾われ好事家の晒し者になるようだ。第 1 句は全漢字俳柳。



クラシックカー懐かしシネマ思い出す
アルカポネやゲシュタポも乗っていたなぁ
(トリノ・自動車博物館)

ハネムーンはアルファロメオでどうですか
フェラーリ・オープンカーもありますよ
(トリノ自動車博物館)

未来カー長低高速視界良し
新幹線の鼻、低座、リニアモーター並み速度
(トリノ・自動車博物館)

黒ラブがオレの飯だと肉屋前
自宅も市場も日常生活みなオレオレ天下
(ジェノヴァ・メルカート・オリエンターレ)

カーニバルや春を呼び込む街おこし
ヴィアレッジョの祭りは近し春模様

イタリア東リヴィエラの南、ピサへ行く途中にヴィアレッジョという町がある。毎年春の幕開けに巨大人形の山車で練り歩く祭りがある。いわばイタリアの「ねぶた祭」である。今回は立寄らなかったが、同じような春祭り(carnival)が 2～3 月にかけてコートダジュールやイタリアン・リヴィエラの各所で盛んに行われる。その準備の様子をニースやマントンに見ることができた。目抜き通りにはパレード観覧用の特設階段状桟敷席が設けられ、夜ともなれば大観覧車や街路のイルミネーションが眩い。昼間よりむしろ夜間の方が見栄えがする。大勢の観客が沿道を埋め尽くし賑やかな催事を楽しむ様子が目に浮かぶ。マントン同様、サンレモ(イタリア)ではレモン祭りが行われる。さらに 5 月には有名な音楽祭、そしてミラノをスタートする 300 ㎞自転車ロードレースのゴール地点でもある。いずこもお祭り大好きなイベント大賑わいの街である。

中世(ちゅうせい) 都市高さを競う塔の街

頭上(とうじょう) に緑樹 翳(かざ) すやルッカの塔

ピサから北東へ電車で約 30 分のルッカを訪れる。ルッカは 4 ㎞の城壁で囲われた古都で、いたる所に中世の面影を残す。サン・マルティーノ大聖堂(ドゥオーモ)にはティントレットの「最後の晩餐」画がある。ほかにも沢山の教会があって、ファサードや建築様式、所蔵品にそれぞれ独特な造作が見られ面白い。旧市街のあちこちに教会の塔屋がそそり立ち、「塔の街」とも言えよう。登楼可能な塔がいくつかあり、その中で塔頂に樫の

樹が茂るグイニージ塔(Torre Guinigi:高さ 44.25m)に上る。受付の女性に「昨日傘寿になったばかりの爺様はコンセッションで行けるね」と値切れば、愛想よく「勿論一人 5€が 3€になります」。そして彼女の‘Happy Birthday to you’の掛け声に送られて 320 段の階段を上り始める。一寸しんどかったが天辺に辿り着けば、民家の赤茶色の甍を下地に教会の塔や青銅色の伽藍を一望に睥睨することができた。しばし樫の葉陰に腰を下ろし、トスカーナの微風に頬撫でられながらルッカの街を堪能する。緑色の鬘(ｶﾂﾗ)を被った素晴らしい直立塔であった。

塔が立つ中世そのままルッカの街
市街は迷路、けだし塔を見つけて踏査せよ
(ルッカ旧市街)

樫の樹と共に見下ろす旧市街
地上 40 数ｍ、東西南北眺め佳し
(ルッカ・グイニージ塔頂)

教会の外壁広告モザイク画
ファサードの絵が素晴らしい(Bravissio!)
(サン・フレディアーノ教会)

ティントレット名画を残すドゥオーモ内
最後の晩餐はダ・ヴィンチだけじゃない
(ルッカ・ドゥオーモ)

景勝地チンクエテッレは 夏見冬歩 波砕け東リヴィエラ思案の地

ドゥオーモ変、外観構図非対称

立派な鐘楼に寄り添う正面右側短縮
(ルッカ、サン・マルティーノ大聖堂)

世界遺産に指定(1997)されているイタリア東リヴィエラのチンクエテッレ(Cinque Terre)は、海陸の織り成す険しい地形に存する五つの漁村という意味で、急斜面に寄り添うようにカラフルな家々が林立し、それらを青い海と白浜や岩礁が 20km に亘って結ぶ地域である。風光明媚な景観から当地を訪れる観光客は多い。しかしこの間、急行列車は岩山をくりぬいたトンネルを通過するだけで外の絶景を見ることはできない。普通列車は 5 駅に止まっても本数は少なく、それぞれトンネル内の無人駅である。そこでチンクエテッレへの立寄りは諦め、同じ世界遺産区域の南外れにあるリゾート地ポルト・ヴェネーレを訪れて雰囲気だけでも味わうことにした。海岸線に点在するお伽の国の家並みは海上から見るに限る。遊覧船が運航されるのは暑い夏場のみ、時折寒風の吹き荒ぶ冬場は、むしろ上り下りの小径をトレッキングするのに向いている。

トリノ街フィリピーノ踊る違和パレード
民族衣装の一団練り歩く、カソリックの縁か
(トリノ旧市街)

雪冠る山の彼方は何処の地(カッラーラの山々)
イタリアン・リヴィエラから見る山岳風景
(チンクエテッレから東方を望む)

海側を遠く眺める五つ村(チンクエテッレ)
岬の突端から、その右手にバイロンの洞窟
(ポルト・ヴェネーレのサン・ピエトロ教会)

城塞の脇に墓所あり夕陽受け
篤信の後裔、手入れ良く、花卉絶えず
(ポルト・ヴェネーレの墓地)

イタリアに人生 刻(きざ) む中華人

ポルト・ヴェネーレに行くためラ・スペチアのバス停で待機していたら、中国人らしき家族連れがやって来た。同じバスに乗り込む。終点で降りた数えるほどの訪問客は、皆それぞれに閑散とした海岸通りを岬のサンピエトロ教会(13C 建立)目指して歩き出す。ここで件の家族連れと初めて会話を交わす。中学生(娘)と小学生(息子)の二人の子どもと一緒に台北新竹からやって来た台湾人の中年夫婦であった。本人は独身時代一度当地に来て惚れ込み、新婚旅行で二度目、そして今回子ども連れで三度目の来訪と言う。ファミリーの歴史が刻まれた旅行である。「明日はチンクエテッレのトレッキングに出掛ける」という方向のクリフを背景に家族写真を撮ってあげる。翌朝ホテルの食堂で彼等と再会、同宿していたのだ。彼は私たちのテーブルにわざわざやって来て、「今度台湾に来られる時は、台北の歴史博物館と東海岸の花蓮に是非行ってください。台湾の事がよくわかりますよ」と言い、私たちの事を「郷里の両親に重ねる思いでした」と今度の邂逅に礼を言う。最初に見た時、派手で独善的な中国人や韓国人とは違うなと思っていたが、日本人以上の実に謙虚で堅実な人たちであった。

異国の地一期一会の犬友に
愛犬に深紅のドレス似合うかな

私たちには日本にペットの犬がいる。世界いずこに旅しようと彼女(雌犬)の事が気になる。訪問地のあちこちで散歩中の犬飼族に出会うと声を掛ける。犬種は見ればわかるが名前や年齢を尋ね、いろいろ話をする。彼等と一気に距離が縮まり、飼い主の出自や生き方まで聞き出しては情報交換する。言葉は何語であれ意思疎通に支障はない。皆々、友達になってしまう。

わが家の愛犬はイタリアン・グレイハウンド、イタリアには多い犬種かと思っていたら意外と少ない。飼いにくい犬だからであろうか。たまたまトリノの広場で品の好い若夫婦が連れていたイタグレを見つける。お洒落な飼い主とも似合いの犬ドレスを着ていた。ひょっとしたら愛犬のための防寒衣装が当地にはあるかもしれない。そう思っていたらラ・スペチアのバス停を降りた所に大きなペットショップがあった。店員に尋ね寸法の合いそうな真赤な犬ドレスを見つけ愛犬への土産とした。ところが帰国後、試着するとしっくりしない。それから 1 週間、家内は裁縫ハサミとミシンを取り出し格闘、何とかリフォームに成功する。かくしてイタリアン・ニューファッション・モードのセレブ犬が出来上がった。(次号に続く)

イタリアに犬もいろいろ好い仲間
正真正銘のイタリアン・グレイハウンド
(トリノ・サンカルロ広場)

残雪の寒さ厭わぬ大型犬
トリノ在住 8 年のスペイン人が飼主
(トリノの王宮庭園)

人目立つ民族衣装勢ぞろい
広場をぞろぞろデモスト、日曜日のイベント
(トリノ・王宮前カステロ広場)

三層のビチェリン飲んで小休止
トリノ名物(ココア・コーヒー・生クリーム)
(サンカルロ広場のカフェ・トリノ)

ウェブサロンの話、あれこれ

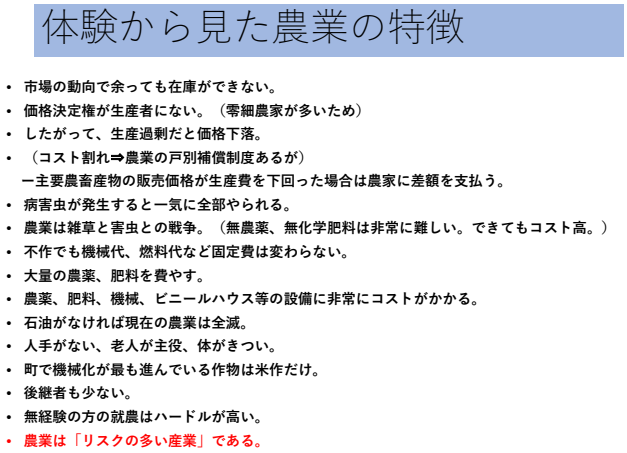
第 2 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

第 2 回 ICT 海外情報ウェブサロンが 2020 年 7 月 21 日(火)20 時～21 時、ウェブ会議室において開催された。テーマは「農と食を考えてみたら」であり、大分県、京都府、奈良県などからの参加や女性の参加もあって、前回に続きダイバーシティあふれるものであった。終了後は、オンライン飲み会を実施し、22 時 30 分まで話が尽きないものとなった。

まず、参加者が簡単に自己紹介したが、懐かしい人達との再会に心が躍るようだった。次に、当会の倉島幹事からご自身の農作業の経験談、日本の農と食の問題、世界の動向などかなり詳細に説明し、ウェブサロンでの議論に向けて問題提起した。議論の時間が足りないほど、多彩で活発な議論が行われた。

倉島幹事のプレゼンから、いくつかの話題を以下に示す。



・はぜかけ米を作っていたが、籾で保管するので、コンバインハーベスター米より味が長持ちする。
・果物栽培は摘果と剪定が肝心である。
・地面をアルミ箔で覆い、太陽光を反射させると、リンゴの色が良くなる。
・黒豆の畑の上に糸を張って、鳥による作物被害を防いでいる。
・人参などの野菜を地中に埋め、藁で覆って春まで保管している。
・農業の基本は土壌にある。土、水、隙間のバランスが大切である。堆肥は必要であり、作条施肥によっている。
・日本は食糧自給率 39%、食糧輸入量世界一の一方で、大量の食品ロスがある。
・農水省は、食糧輸入なしの時の食事の例(1 日あたり 2020kcal)を示しているが、国民の理解が必要だ。
・外国の農地を取得する国があるが、日本はその動きはしていない。
・穀物流通において、カーギル(米)は世界シェアで 4 割を有している。農薬流通においては、バイエル(独)がシェア 22%でトップであるが、中国資本傘下のシンジュンタ(スイス)17%とアダマ 6%を合計すると、中国が世界一のシェアとなる。
・農業 ICT としては、LPWA によるセンサー活用、植物工場、クラウド等、進展しつつある。
・世界の人口が増大する 21 世紀末には、食料が逼迫し、現在食料輸出最大のアメリカもその余裕がなくなる可能性がある。日本の食糧確保の問題が予想される。
・人工食用肉(大豆)や人工葉緑素(光合成)などの研究も進められている。
・農業はいろいろな問題を抱えている。例えば、在庫が出来ない、農家の価格決定権がない、病害虫による全滅のリスクがある、雑草との闘いだ、石油がないと機械が動かず農作業が出来ない、人手が全く足りず外国人に頼るしかない、などがある。

参加者からは、農業政策の問題はなかったか、減反政策が食糧自給率低下を招いたのではないか、農業のビジネス化が進まないのはなぜか、農業機械の導入状況はどうか、国の農業補助金制度は適切か、など活発な質問・意見が提起された。また、外出自粛の中、気分転換といくつかのヒントが得られたとの声もあり、今後ともウェブサロン継続開催や日程・時間設定へのご提案など、次回開催に強い期待が寄せられた。次回開催については別途ご案内いたしますので、多数の方々のご参加をいただければ幸いです。

ディスカッションの参考項目

- 日本の食料自給には限界がある。
  （日本の全耕地面積を利用しても食料自給は無理かも）
  （終戦直後の農業と食生活に戻れば生きられる）
- 世界の人口増加に対処できない。21世紀末は食料の奪い合い？
- バイオ燃料への転用等で、ますます世界の食料は逼迫する。
- 農業は石油づけ。石油がなければ食料生産は極端に減る。
- 日本の農薬、肥料も外国依存。
- 日本の農家の後継ぎが少ない。
- 日本は小規模農家が多く、コスト高。しかし、品質は世界最高。
- 農業にとって価格下落が大きいリスク。（その補償こそ政策）
- 日本人の食の洋食化が問題。したがって輸入食品に頼ることになった。消費者の嗜好は戻らない。（純日本食は健康的なのだが）
- 若者に希望の持てる農業にしないと日本の農業・食糧問題は解決しない。

＜事務局注＞倉島幹事のプレゼン資料は、同氏のご厚意により、下記サイトからダウンロードすることができます。

https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/

編集後記（編集者から一言）

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 93 号を発行することができました。今回は新たに NTT 東日本　デジタル革新本部の長江国際室長(当会顧問)から「ブータン国災害対策強化プロジェクト」のご寄稿をいただくとともに、徒然日記、海外実践マネジメント、海外グラフィティ、海外便りのご寄稿も継続していただき、誠にありがとうございます。当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。

https://ictov.jimdo.com/コメント/

5 月に緊急事態宣言が解除されましたが、依然として不要な外出を自粛する中、ICT 関係者として気分転換と切磋琢磨の機会となるよう、「ICT 海外情報ウェブサロン」を開催しています。終了後はオンライン飲み会も実施し、オンライン飲み会なんて、と思われていた方が驚くほど、リアルな場となっております(単に、酔っ払っているだけだ、との指摘もありますが)。ご参加の皆様のご協力に感謝するとともに、次回開催の折は当会の皆様が多数ご参加いただければ幸いです。

皆様からのさらなるご寄稿をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

発行：　ICT 海外ボランティア会(ICTOV)
会報担当：　空席のため募集中（編集長兼広報部長)、山川　博久(事務局長)
ホームページ担当：　山崎　義行(報道部長)、安達　信男(幹事)